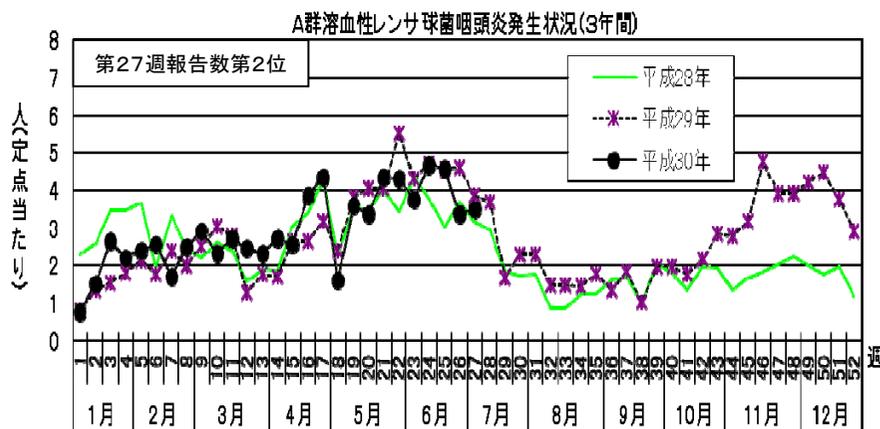
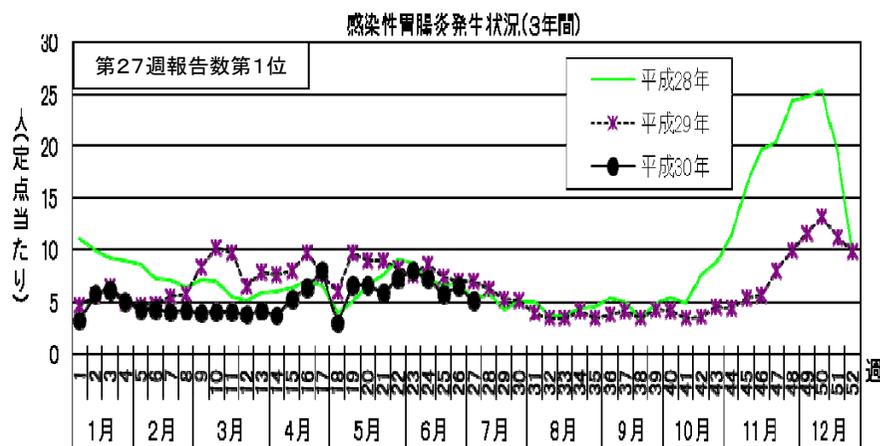


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年7月2日（月）～平成30年7月8日（日）〔平成30年第27週〕の感染症発生状況

第27週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 伝染性紅斑でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.11人と前週（6.56人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.49人と前週（3.36人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は2.08人と前週（3.44人）から減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



1年おきに流行がみられています！～ヘルパンギーナ～

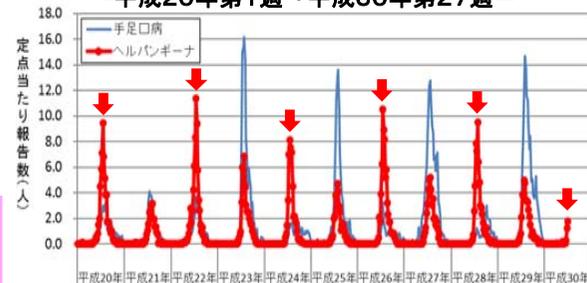
例年、夏季に流行する疾患として「手足口病」や「ヘルパンギーナ」が知られていますが、いずれもエンテロウイルスを原因とする感染症です。

川崎市では、過去10年間において手足口病とヘルパンギーナが1年おきに流行しており、今年はヘルパンギーナの患者報告数が増えることが予想されます。

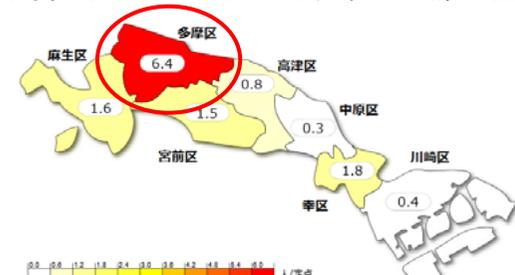
平成30年第27週（7月2日～7月8日）のヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は1.76人と例年並みのレベルですが、多摩区では流行発生警報基準値（定点当たり6人）を超えています。

手洗い等の予防対策を徹底しましょう。

川崎市における手足口病とヘルパンギーナの発生状況
～平成20年第1週～平成30年第27週～



川崎市におけるヘルパンギーナ分布マップ(第27週)



川崎市感染症情報発信システム (KIDSS)

ヘルパンギーナとは？

感染経路：飛沫感染、接触感染、糞口感染

潜伏期間：2～4日

症状：突然の発熱（38～40℃）、のどの痛み、のどに白い水疱性の発疹や潰瘍

※発熱時に熱性けいれんを伴うことがあります。ほとんどは予後良好です。また、まれに髄膜炎、心筋炎等を合併することもあります。

注意点

症状改善後も長期（約1か月）にわたり便中にウイルスが排出されますので、特にトイレやおむつ交換の後は念入りに手を洗いましょう。